

令和4年度第4回佐倉市指定管理者審査委員会会議記録

日時	令和4年9月26日(月) 午前9時50分～午後5時30分	
場所	中央公民館1階 大ホール	
出席委員	八木直人委員長、櫻田孝副委員長、室谷利子委員 菅原優輔委員、吉光孝一委員	
オブザーバー	(さくらんぼ園) 社会福祉法人は一とふる 理事長 小林 公平 氏 (よもぎの園) 社会福祉法人菜の花会 理事長・統括施設長 小林 勉 氏	
施設所管課	障害福祉課	山本課長、土屋主査、東城主査、 濱田主事
	商工振興課	高橋課長、河内主査、三田主任主事
事務局	資産経営課	小菅部長、渡部課長、橋本副主任、 飯塚主査、金田主任主事
傍聴人	3人	
議題	(1) さくらんぼ園 個別ヒアリング [公開] (2) 委員協議 [非公開] (3) よもぎの園 個別ヒアリング [公開] (4) 委員協議 [非公開] (5) スマートオフィスプレイス 個別ヒアリング [公開] (6) 委員協議 [非公開]	

※佐倉市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例第15条第4項の規定により、障害者福祉施設の管理運営について専門的見地から助言を頂くため、社会福祉法人は一とふる 小林 公平 理事長と、社会福祉法人菜の花会 小林 勉 理事長・統括施設長に、オブザーバーとしてご参加頂いた。

## 1 さくらんぼ園 個別ヒアリング

書類審査における疑問点を中心に委員会から質問し、申請団体から回答を得た。

### ① 社会福祉法人千手会

(主な質問と団体からの回答) ○：質問 →：回答 ◎：意見

- 事業報告書等を見ると利用人数や契約者数が増加しているようだが、それに対する人員の確保についてはどのように考えているか。  
→常勤職員については保育士、看護師、作業療法士の増員を考えている。保育士は充足しており、優先順位としては看護師が高い。
  
- 看護職員の確保については、具体的にどのように進めていくのか。  
→看護師は不可欠であると考え。看護師は非常勤での採用を考えている。利用児童はプログラムのある日に曜日を決めて登園してもらうこととなるため、毎日ではなく必要に応じて出勤していただくという形を想定している。
  
- 看護職員の採用時期について予定は決まっているか。また、専門的な知識やバックグラウンドがある人を採用するのか。  
→看護師については今すぐにでも採用したいと考えている。しかし、本来の看護師の業務と異なり、日常の療育にも参加していただくことになるため、見学に来たとしてもなかなか採用には至らない。乳幼児のケアがあるので、小児病院などでの勤務経験があると良い。ハローワークや求人情報誌などで募集をしている。
  
- 作業療法士の採用についてはどのように考えているか。  
→現在は理学療法士が兼ねているため、すぐに必要というわけではない。子ども向けの療育施設での経験者が少ないので、じっくりと探したい。
  
- 作業療法士について、資格者を新卒採用し、この施設で育てていくというのはどうか。  
→専門の指導者がいないため、新卒採用して育てることは難しい。
  
- 継続して勤務してもらえるよう独自の役職手当をつけるとなっているが、この手当について伺いたい。  
→経験年数と本人の勤務状況によって手当をつけるというもの。長い人では勤続30年という人もおり、その分手当も増額している。

- 人員配置について、さくらんぼ園で継続して勤務している職員が多いのか。  
→比較的多い。長い人で指定管理前の市運営時と合わせて25年勤務している職員もいる。
- 看護職員は小学校の養護教諭とは違い、保育にも携わる必要がある。そのような事からも採用は難しいと考えるがどうか。  
→指定管理導入当初から勤務していた看護師は障害福祉に理解があり、常に保育をしながら働いていた。その後採用した人は看護師経験のみであり、保育経験がなかったことから難しい部分があった。なかなか条件に合致する人が見つからない。
- 法人内の他の施設にいる看護師を配置するなど手段を講じることはできないか。  
→乳幼児の医療的ケアは特殊であり、一般の看護師では難しい。佐倉市内に医療的ケアの専門施設があるので、連携をとるようにしている。法人内他施設の看護師は看護専門であり人数も少ないため、他の施設から配置するのは難しい。
- 「ライフサポートファイル活用勉強会」の開催を検討することだが、想定スケジュール等あれば伺いたい。  
→当面は決まっていない。新型コロナウイルスの影響もあり、現在は個々に説明している状況。
- 「ライフサポートファイル活用勉強会」の市の所管課とのすり合わせはこれから行うのか。  
→佐倉市障害者総合支援協議会の療育部会への参画者が障害福祉課と詳細を詰めているところ。保護者だけでなくファイルの受取り側となる学校や保育園等の先生にファイルの意味を理解いただき活用してもらうことが一番の目的である。そのためにも関係部署と連携していく必要がある。
- 「ライフサポートファイル活用勉強会」を具体的に進めるために市に求める役割はどのようなものか。  
→ライフサポートファイルをどう活用してほしいのかということ、佐倉市が中心となって学校や保育園等に発信していただくことが大切だと考える。我々はその中身を伝える立場と考えている。
- 「ライフサポートファイル活用勉強会」の主催者と参加者は誰か。

→障害者などの相談対応を行う相談支援事業所が主催するべきであると考えている。ライフサポートファイルは利用者が保育園等から小学校など新しい環境に移ったときに切れ目ない支援を行うために使用するものである。現状、保護者に対しては、ファイルを渡す際に個々に説明はしているので、一定の理解はしていただいている。支援者が勉強会に参加し共通理解をする必要がある。

- 「ライフサポートファイル活用勉強会」は市が主催の方が良いか。  
→ファイルを作ったのは市なので、市からの説明も必要であるとする。
  
- さくらんぼ園が児童発達支援センターが果たすべき中核的な役割について、他機関との連携を含めてどのように考えているか。  
→児童発達支援センターの役割は、子どもが障害のありなしにかかわらず、地域でより良く生活するために支援することである。子どもの療育だけでなく、家族、学校、近所の方々など、全体として必要な支援を考えていかなければならない。ただ子どもを集めて療育するだけでなく、地域を巻き込んで一緒に考えていきたい。
  
- 具体的に、連携したいと考えている機関などはあるか。  
→佐倉市は行政の風通しが良く、他所属や民生・児童委員とも必要があれば連携がとれる状況であるため、特にはない。  
数年前に緊急一時預かりをスタートさせたが、一泊するというときに市の施設であるさくらんぼ園に泊めることができないという問題があり、夜のケアについては課題となっている。
  
- 研修会や勉強会、他施設との交流を企画しているが、具体的な取り組みを伺いたい。  
→全体的な質の向上を考えて研修会は実施したい。事業所の研修については、新型コロナウイルスが流行する前は他の児童発達支援センターへ研修に行っていた。他の施設の活動については見る機会がないため、必ず全員実施していた。状況を見ながら再開したい。
  
- 「ライフサポートファイル活用勉強会」について、療育の結果を小学校の先生に見てもらおうというのはわかるが、療育と小学校での教育は、目的は一緒でもやり方が違う。療育をやっている人以外の意見も反映させるべきなのではないか。  
→小学校の先生にはいちばんにライフサポートファイル活用勉強会に参加

いただきたい。ファイルの内容についても意見が欲しい。

○市内の他の事業所や関連機関との連携について、新たな独自事業として療育連携事業とあるが、具体的にはどのような内容か。

→保育所等訪問支援事業として、保護者からの要請があった場合に、保育園や幼稚園等に赴き、子どもの支援について訪問先のスタッフと協議を行う。県の療育等支援事業において幼稚園等からの要請を受けて支援を行うが、半年程度で予算が無くなるため、残りの実施分を独自事業で行うこととしたいと考えている。現在、一部実施している内容があるためそれにプラスして実施しようとするものである。

○児童発達支援センターには福祉型と医療型があり、県内にはいくつかその両方を兼ね備えた施設がある。地域の中核的役割を持つ療育支援施設の管理運営を委ねられた立場として、福祉型と医療型を合わせた施設の実現についてどのように考えるか。

→現在でも、医療的ケアの必要な子どもを受け入れている。今後もその形で進めたい。

○当園では親子通園となっているが、保護者のレスパイトを考えた場合それは適切か。

→児童発達支援センターで親子通園を行っているというのは全国的にも稀だが、佐倉市の地域性を考えると親子通園は重要であり、就学前に親がどのように関わっていくかということが非常に重要なことなので、今後も継続していきたい。レスパイトの部分については、他の事業所を頼っている状態なので、さくらんぼ園でも受け入れられる体制を早急に作りたいと考えている。

○施設の多機能化の試みについて伺いたい。

→現在すでに多機能化しており、法的な施策については網羅している。

○利用者が増加して体制を拡充させていくと、現在行われているサービスを維持できるのか。

→現状は問題ないが、理想は保育所等の施設訪問を拡大させて地域支援を広げたいと考えている。保育所等を休んでセンターに通うのは親にとってハードルが高いことから、支援員が施設にいられるよう派遣できる組織があるとよいと考えている。

○研修の実績はいかがか。

→常勤、非常勤関係なく外部の研修を一人一回実施していた。事業所内での活動だけでは気づきにくいこともあるため、他の事業所を見てもらうようにしている。法人全体の研修では、虐待やアンガーマネジメントについて年2回実施している。今後も各専門職員の能力を向上させる講習には積極的に参加していきたい。現在は新型コロナウイルスの影響により、外部の研修に行く機会が少ないため、園内で勉強会を実施している。

◎提案書には研修の内容について具体的に書いていただきたい。どのように人材を育てるのか、どのような能力を伸ばすのかということを確認してほしい。また、自ら積極的に研修の情報を得るようにしていただきたい。施設長は素晴らしい施設運営能力があり、自らが努力し、能力を伸ばしていく姿を見て、他の職員も後に続いていくと思うので、引き続き努力していただきたい。

## 2 委員協議（さくらんぼ園）

個別ヒアリングに基づく、所感報告や意見交換等を行った。

### （主な意見）

- ・さくらんぼ園での療育だけでなく、家族やその後通う学校まで切れ目ない支援を行うために必要なこととして、ライフサポートファイル活用勉強会を検討しているのだと感じた。
- ・職員の能力向上について、市がどのようなことを求めているかが明確になると、より職員を育てる目的や手段が見えてくるのではないか。
- ・ライフサポートファイル活用勉強会について、内容やスケジュールを市と連携して固めていく必要があると感じた。今後、保育所等への訪問支援を拡大する場合に増員の必要があるか心配している。
- ・職員個人の力によるところが大きい施設だと感じる。  
職員の研修について、市の方でも空き時間に受講できるようなWeb研修などを独自に計画してほしい。
- ・研修をもう少し頑張ってもらいたいと感じた。現場でできることには限界があり、法人としての努力も期待したい。
- ・熱意を感じる一方、療育への思いが強すぎるとも感じた。福祉型と医療型を

合わせた施設の実現について、今でも十分に行っているとのことだったが、例えば肢体不自由児とそれ以外の子どもを分けて展開をしていくというような話が出てくると良かった。

- ・独自事業としている療育連携事業は、新規事業ではなく現在行っている事業の延長であり、その結果として中核的な役割を担っていくことになるのだと理解した。人材確保は難しい問題である。

### 3 よもぎの園 個別ヒアリング

書類審査における疑問点を中心に委員会から質問し、申請団体から回答を得た。

#### ① 社会福祉法人愛光

(主な質問と団体からの回答) ○：質問 →：回答 ◎：意見

○地域に密着した施設運営の必要性とその方策について、これまでの運営実績に関する記載しかないので、実績に加えて今後の方策として考えていることは何か伺いたい。

→地域の方々と連携して取り組んでいることについては継続していく。

また、現在、よもぎの園の所長が地区社協の福祉委員を務めているが、高齢化が進んでいる宮前地区の維持を住民だけで担っていくのは難しいのではないかと考えており、よもぎの園が地域に還元できるものはないか、そしてそれが利用者の仕事に繋がっていくかということを考えていきたい。地域と情報交換しながら進めていきたい。

○地域の維持について、具体的に想定されることや、すでに行っている取り組みなどがあれば伺いたい。

→宮前地区の高齢化率は50%を超えており、日常の中の些細なことでもできないことが出てくると思われる。戸建てが多いので、草取りや網戸の交換など、利用者ができる作業の中で提供できるものがあるのではないかと想定している。

○今後そうした取り組みを行っていく上で、人員体制についてはどのように考えているか。

→現在の人員体制は配置基準よりも多い配置となっている。さらに人員が必要となれば、他事業所からの異動など法人で検討していきたい。

○他の事業者や関連機関との連携・協力について、今後新しく考えていることがあれば伺いたい。

→新しいものはないが、継続しているものは引き続き行っていきたい。

○サービス向上の取り組みについて、送迎車の増車や送迎ルート拡大とあるが、どの程度拡大するのか具体的な内容について伺いたい。

→現在、4台ある送迎車のうち1台は軽自動車であるため、主に3台を活用している。近年、送迎希望者が増えてきたため、軽自動車からワンボックスカーなどの大きい車にして活用していきたい。送迎ルートについては、四街道方面の希望があるので、台数が増えればそちらにもルートを拡大していきたい。

○就労継続支援について今後注力すべき事業は何かということに対して、高齢化を課題としているが、具体的な対応策はあるか伺いたい。

→現在、平均年齢は45歳程度で、70歳以上が2名いるが、段差でつまずいたり、一人で階段を上がれないなど、危険な場合が出てきたため、職員で注意すべき内容を情報共有し、フォローをしながら対応している。新しい設備やバリアフリー改修ということは考えていない。

○高齢の方はいつまでもよもぎの園にいることはできない。退所後についてはどのように考えているか。

→家族の話も伺いながら、高齢者施設へ移行するタイミングやフォローを行っている。

○独自事業としてグループホームバックアップ事業とあるが、この事業の内容と収入、支出の内容、独自事業を行うことによる人員配置をどのように考えているのか伺いたい。

→内容としては、法人で開設したグループホームに入居し、そこからよもぎの園に通っている利用者について、日ごろ利用者のことを見ているよもぎの園の職員が宿直に入って、グループホームの職員に利用者の特性などを伝えるようにしているというもの。支出の66,000円は人件費であり、収入については法人からの繰入金となっている。

○日帰りショートステイ事業は現在行っているか。また、増員は必要か伺いたい。

→現状利用者はいないが、希望があれば実施する。現在いる職員で対応可能なため、増員の必要はないと考えている。

- 維持管理について、工夫している点や苦勞している点について伺いたい。
- 廊下や医務室の空調が使えない状態となっている。
- 壊れている空調について、今後どのように対応するのか。
- 近隣の小学校から冷風機をお借りし対応している。具体的な解決には至っていないので、今後も市と修繕等にむけての話し合いをしていかなければならないと感じている。
- 利用者が行う生産活動の充実のために請負作業を増やしていきたいと思うことだと思うが、具体的にどのような取り組みをしていくのか伺いたい。
- 現在は自主生産よりも受注生産が主流になっている。新型コロナウイルスの影響で止まっていた仕事も再開し始めている。あまり手を広げすぎず、いただいた仕事を丁寧に行うことで次の仕事へつなげていくようにしている。また、一つの事業所で受けられる作業量は決まっているため、工賃が増えていかないという状況があり、それは市内の他の事業所にも言える。その中で、市内の他の事業所と一緒に受注をすることで受けられる仕事を増やし、工賃を上げていくということも進めている。
- 市に期待する役割はどのようなことか。
- 我々だけでは仕事を発注してくれる事業者の開拓が難しいので、市が間に入って橋渡しをしていただけるとありがたい。また、市からも仕事の発注がある。一方で、事業者側としても、もっとできることを伝えて、仕事を取りに行く努力をしなければいけないと思っている。
- 市外の方でも施設利用できるのか。また、市外の実業家から仕事を受けることもできるのか。
- 市外の方でも利用できる。市外の実業家から仕事も受けることも可能であり、現在も市外の実業家から仕事を受けている。トラックで移動可能な範囲であれば受注できる。
- 親亡き後の問題というのは、家族としては不安に感じるころだと思うが、同じような境遇の家族同士で交流する場を定期的に設けるといったことは考えているか。
- よもぎの園家族会というものがあり、現在は新型コロナウイルスの影響で開催できていないが、それ以前は数か月に1度集まっていた。そ

の場には職員も参加し、一緒に話をしている。現在グループホームのニーズ調査を行っており、必要があれば法人でグループホームを整備するという事も検討している。

◎同じような境遇の方々が、遠慮なく普段の話ができ、それによって落ち着くことができたり、ストレスを解消できるような場を作っていただきたい。

○新型コロナウイルス感染症対応マニュアルを見ると、2022年8月作成となっている。その後、基準等変わっていると思うが、現状はどうしているか。また、改定等の必要性について伺いたい。

→マニュアルは必要に応じて改定している。当初は法人としてすべての事業所について同じ対応をすることとしていたが、通所施設にはそぐわない部分もあり、地域の人が通いやすいような変更も行っている。決まった内容については職員に伝え、共有している。

#### 4 委員協議（よもぎの園）

個別ヒアリングに基づく、所感報告や意見交換等を行った。

##### （主な意見）

- ・地域に密着した施設運営として、地域の維持に着目をし、宮前地区の高齢化を踏まえた上で、一方的に提案するのではなく、地域のニーズを事業所の仕事の中に取り入れながら連携していくというのは、これまでにない取組みとして確認できた。送迎ルートの検討や利用者の家族への対応など、細やかな対応がされていると感じた。
- ・高齢者が50%を超える地域で地区社協の役員も務め、その実態が見えるという中で、地域の手助けをするということを社会福祉法人の存在意義でもある社会貢献活動として、もっとアピールしても良いのではないかと感じた。利用者の高齢化について、生産活動にのみ重きを置くのではなく、来て楽しめる場として、多機能型事業所に変えるということも検討する段階にあるということもはっきりさせると良いのではないかと思う。利用者のためにどこに力を入れていくのか、取捨選択が必要になってきていると感じた。
- ・グループホームのニーズを調査しているとの話があったが、その結果について注目している。

全般的に、提案の具体性が少し薄いという印象を受けたが、新鮮味を出したいという意欲は感じた。

- ・ 社会福祉法人であるため、地域貢献活動にさらに力をいれてほしい。現状だと地域の中に溶け込んで一体化するには物足りないと感じた。
- ・ 全体として物足りなさが残る。努力しているのはわかるが、具体的な方向性が見えにくかった。
- ・ 職員の熱意を強く感じた。利用者への合理的配慮については優れていると感じた。
- ・ この施設を多機能化していくとすると、今後の取組みに影響してくるのではないかという印象があった。

## 5 スマートオフィスプレイス 個別ヒアリング

書類審査における疑問点を中心に委員会から質問し、申請団体から回答を得た。

### ① 山万グループ

(主な質問と団体からの回答) ○：質問 →：回答 ◎：意見

○多様な働き方を応援する施設として、「テレワークの推進」と「起業・創業支援」という大きな2つの目的があるが、起業・創業支援の方で、ビジネスコミュニティやコミュニケーター、メンター制度といった提案がされているが、具体的にはどのような内容か。

→ビジネスコミュニティについて、起業を目指している方々と既にされている方々が、お互いに高めあって成長するための制度である。

コミュニケーターについては、佐倉で起業する方を想定したときに、本施設へ来る意義として仲間との交流や情報の入手ということが重要と考えており、利用者同士を繋げる役割を担うというものである。

メンター制度については、この地域には大企業の元幹部など経験豊富な方が多く居住されており、その経験や人脈等を活用して起業家の育成をしていただくというものである。

○施設の方向性として、利用者同士のコミュニケーションを促す一方、テレワーク等で静かな環境を求めている人もいる。これは方向性として反対ではないか。

- 施設として会話を控えることは求めておらず、受付でも様々な会話が  
行われることについて利用者へ説明をしている。独自事業で設置した  
テレキューブを活用し、静かに仕事をしたい人の妨げになるような仕  
事の仕方になる場合はそちらを利用していただくなど、両立させてい  
きたいと考えている。
- 事業計画書のネットワーク構成機器の更新について、御社で行うのかど  
うか読み取れなかった。このことについて伺いたい。  
→市で更新するものとして認識しており、その際に現状を踏まえて何か  
意見はないかという内容との認識で記載をした。
- メンター制度について、現在何人登録をしているのか。  
→まだ稼働していない。本格的に始めようとしたところで新型コロナウ  
イルスの影響により中断している状況。
- 常勤職員賃金について、業務主任担当とそれを補助する正社員の3分の  
1程度の賃金ということだが、根拠を伺いたい。  
→1人が常駐しているわけではないため、1ポスト分として考えていた  
だけだと思う。3分の1というのは全体の業務のうち、本施設の業  
務に係る業務量の割合として計算している。
- 人員配置について、業務主任担当として正社員が一名となっているが、  
もう一名正社員がいるのではないか。  
→ポストで人数を記載している。例えば、業務主任担当が他の業務で外  
すときに、もう一人の正社員が来ることになっている。
- 利用者が増えれば水道光熱費も増えるのではないかと考えるが、毎年  
徐々に減少している。この考え方について伺いたい。  
→今年度の月平均をベースに3か年分の数字を算出している。現在電気  
料が高騰していることや、利用者数によって使用する電気量はあまり  
変わらないことから、今後水道光熱費は減少していくものとして見込  
んでいる。
- 水道光熱費の高騰が収束しなかった場合についてはどのように考えてい  
るか。  
→その場合、令和5年度と同程度で推移するものと想定しているが、内  
製化できるものは内製化するなど、経費の圧縮に努めて対応してい  
きたい。

- 経費縮減のための具体的方策について伺いたい。
  - 日々の積み重ねしかないと考えている。節電意識を高め、利用がないときには照明や空調をこまめに切るといったことを日常的に行っていくことが必要。
  
- 事業計画書の中で目標の記載があり、「年に1社の起業、1つの新たなビジネスアイデアの創出」となっている。目標を一つに絞る必要はないと考えるが、これ以外に目標はあるか。
  - 起業というのを際立たせ、まずはここに尽力したいということからこの1点のみとした。
  
- 多様な働き方をサポートすることも本施設の目的だが、こちらについての目標値は立てないのか。
  - 数値として明確にはない。
  
- 例えば利用者数など、こういった施設ではまず立てなければならない目標だと考えるが、なぜそれを出さなかったのか伺いたい。
  - 収支等の中では180名の月額利用者を見込んでいる。目標として記載しなかったことについて、深い意味はない。
  
- 年に1社の起業という目標は実現可能か。
  - 今後取組むことを行っていけば可能と考えている。
  
- 起業・創業支援について、どういった産業・仕事で起業していくというイメージを持っているか。具体的に定めておかないと実現が難しいと思うので、考えをお聞きしたい。
  - まずは地域貢献を果たして、それを全国展開していけるような事業が見いだされていくと良いと考える。
  
- ◎キーワードが無いと人は来ないので、出した方が良い。「地域」や「地域コミュニティの支援」といった形で打ち出してほしい。
  
- ◎メンター制度について、高齢者を想定しているとのことだが、現役の若い人でないとあまり意味がないのではないかと思うので、検討してほしい。

- 職員のコワーキングスペースの運営に対するノウハウはどれくらいあるか。
- 実務経験は本施設での経験がある。受付の職員もこれまでの2年間で利用者とのコミュニケーションもかなりとれるようになってきている。地域住民ともつながりもある。
- 他の先進的な施設へ行って勉強したり経験を積んだりするということはないのか。
- 勉強会などはないが、大手が運営している施設と提携をしており、運営方法や展開の仕方を学ばせていただいた。  
その他のコワーキングスペースやシェアオフィスにもヒアリングを実施し、情報収集している。
- ヒアリングだけではなく、実際に他の施設で働いてみるなど経験を積んでいただきたい。
- 起業・創業支援セミナーというのは具体的にどのような取り組みを想定しているのか。
- 起業を目指す方々に本施設を利用したいと思ってもらえるように、SNSを通して起業家に対して有益な情報を発信できるようなセミナーをシリーズとして展開することを考えている。
- 講師に強く依存するようになるが、講師を誰にするかということについて検討はしているか。
- 自身で起業をし、SNSに特化した事業を行っている方を想定している。
- ホームページを見ると、「佐倉市からグローバル企業を創出し、企業・市民共に愛着を持てる市にすることにより地方活性化に寄与」とあるが、後半の内容を踏まえると、将来的に佐倉市に定着するかわからないグローバル企業よりも、地域需要創出型の企業の方が良いのではないか。そのあたりのフォローについてどのように考えているか。
- 同じ仕事を発注するなら市外ではなく市内の企業に発注しようという流れを作りたい。そうすることで人も集まってくる。グループとしても、仕事を発注するときには月に1件以上ホームページでビジネスチャンスのご提案として公表している。佐倉の中で仕事を出し合い、地域の事業を活性化していければと考えている。

◎他の地域でもスマートオフィスプレイスのアドバイスを受けながら、地域需要創出型の事業を行って、それがその地域に根付いて住民の方に喜んでもらえるということを目指し、信頼を得て、大きな企業となっていくという方向性も必要だと考える。

○シェア工房の利用について、利用者が限定され利用率も低いということで、今後の利用はあまり期待できない。このままでは有効活用されないのではないかと思われるが、今後についてどのように考えているのか。  
→レーザー加工機が非常に高価なものであるということもあり、まずはこれを使っていたきたい。レーザー加工機の利用について説明会を実施したが、定員5名としたところすぐに満員となった。その中で次の利用につながるような動きも出てきている。一方で、どのようなことができるのかについての発信が足りていなかったと感じており、今後は初めてでも簡単に利用できるということも含めて情報を発信し、利用率を高めていきたい。

## 6 委員協議（スマートオフィスプレイス）

個別ヒアリングに基づく、所感報告や意見交換等を行った。

### （主な意見）

- ・ネットワーク構成機器の更新について、提案がなく残念である。
- ・人件費や水道光熱費の算出根拠が不明確である。メンター制度について、令和2年の佐倉市のモニタリングで導入に努めるよう指導されているが、まだ開始していない。起業については佐倉商工会議所において起業家のための起業塾を開催しており他の団体とも協調してほしい。
- ・地域の活性化ということを言うのであれば、地域需要型の企業にもっと目を向けるべきである。

### 【事務連絡】

- ・次回は10月14日（木）に委員協議を実施する。

以上